市民の声にしっかりと耳を傾け、みなさんが安心して生活できる街へ

岡村瑠夏さん（2002年生まれ）
津東高校 出身

企業情報
松阪市役所
松阪市殿町1340番地1
https://www.city.matsusaka.mie.jp

出身大学
四日市大学
総合政策学部
https://www.yokkaichi-u.ac.jp

―学生時代

「高校時代、親に『公務員に向いてるんじゃない？』と言われたことがこの仕事に興味をもったきっかけです。市役所の窓口に行ったとき、職員の方が市民と密接に関わり感謝されている姿を見たことで、その思いが強くなりました。卒業後は、公務員をめざし四日市大学に進学しました。カリキュラムに公務員養成ユニットがあるなど、公務員養成にも力を入れているところに魅力を感じたのが決め手です。実際に1年次から4年間かけて数的推理、面接、論文等の対策授業があったので心強かったです」

学生時代について教えてください。

「オープンキャンパスのスタッフや四日市商工会議所のまちづくりに関する取り組みなど、様々な活動に参加し、人との関わりの大切さを学びました。また、被災地ボランティアにも参加しました。災害のニュースを見て自分にできることはないかを考え始めたのがきっかけです。東北や能登の現地で状況を目の当たりにし、防災への関心がより強くなりました。3年次に参加した松阪市防災対策課のインターンシップも印象に残っています。防災啓発の出前講座を担当し、新しい知識をたくさん吸収できました。地元の松阪市役所で働きたいという思いが明確になった経験です」

―仕事について

「大学卒業後、松阪市役所に入庁しました。市民の声を直接聞きながら、市民一人ひとりの暮らしを第一に考え、みなさんが安心して安全に生活できる街にすることが私たち市役所職員の仕事です」

現在の仕事内容を教えてください。

「私は防災対策課に所属し、災害発生時の被害を最小限に抑えるための活動を行っています。災害時に役立つ冊子や避難行動マニュアルの作成、小・中学生への防災講和や防災訓練、備蓄品点検などが主な仕事です。日頃からの備えや防災意識を高めてもらえるように、啓発活動も大切にしています」

―やりがい

「防災講和で市民の方から『ありがとう』と言ってもらえたとき、自分の仕事が誰かの力になれていると実感でき、やりがいを感じます。直接いただく感謝の言葉が何よりの励みです。これからも日々の業務のなかで学びを重ね、防災に関する知識や対応力をしっかりと身につけていきたいと思っています」

―メッセージ

「少しでも公務員に興味があるなら養成プログラムの受講をおすすめします。一般企業をめざすことになっても、数的推理はSPI対策になりますし面接対策はどの業界でも役立ちます。就活ではキャリアサポートセンターでエントリーシートの添削や面接練習をしてもらい、本当にお世話になりました。先生との距離が近く親身に相談に乗ってくれるところも四日市大学の魅力。気軽に質問できる環境が自身の成長につながったと感じています」

ありがとうございました。

自分年表

18歳
公務員養成プログラムのカリキュラムに惹かれ、四日市大学に進学。

↓

22歳
様々な活動を通し、人との関わりの大切さを学ぶ。被災地ボランティアに参加し、防災への関心がより高まる。

↓

現在
松阪市役所に入庁。防災対策課に配属され、防災講和や防災訓練など、防災啓発の活動に取り組む。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！
http://amb100search.com

消防士の仕事は人の命を助けること。それに大きな責任とやりがいを感じる

臼杵快さん（1999年生まれ）
海星高校 出身

出身大学
愛知学院大学
法学部
https://www.agu.ac.jp

企業情報
四日市市消防本部
四日市市西新地14-4
https://www.city.yokkaichi.mie.jp/syoubou/index.php

―学生時代

「野球をやっていたので、朝から夜まで部活漬けの毎日でした。部活を通して礼儀を学ぶことができたと思います。当時は漠然と消防士など公務員になりたいと思っていましたが、その目標が明確になったのは大学時代。事故に遭い、消防士の方が救助に駆けつけてくれたことがあります。その経験から、自分も将来は人を助ける仕事がしたいと思うようになりました」

大学時代について教えてください。

「刑法や民法など、法律について学びました。その中で私が専攻したのは国際法。国家間で結ばれる条約などについて研究しました。公務員試験に向けて、公務員試験対策講座を受講しました。数的処理など分野ごとの教養試験対策を効率的にできたと思います。大学のキャリアセンターでは面接や論文対策を何回も手伝ってもらい、不安なく公務員試験に臨ことができました」

―仕事について

「8ヶ月間、消防学校に入り、ホースを伸ばして放水をする訓練、梯子の取扱い、火災現場の建物への進入の仕方など、消防活動の基礎となる訓練をおこないます。後半は想定訓練が中心。実際の現場を想定し、与えられた情報をもとに戦略を立てながら活動する訓練をおこないました。仲間と助け合いながら常に平常心で活動することが大切だと実感

しました。あとは、店舗に火災報知器などが設置されているかを検査する予防業務の知識も学びました」

仕事内容を教えてください。

「現在は、火災、救助、救急、予防、4つすべての業務を担当しています。消防士は、人の命を助ける仕事。究極の人助けだと思います。火災が起こったときは、装備を着て出動し、要救助者がいるか、隣の建物に燃え移る可能性がないかなどを無線で確認しながら消防車で現場に向かいます。現場の情報をもとに戦略を立て、消火活動や要救助者の救助に当たります。心がけていることは、まずは自分の命を守ることが大前提。危険と隣り合わせのイメージがあると思いますが、その強い意志が大事だと思います」

―やりがい

「救急車に乗って出動することが多いのですが、市民の方から感謝の言葉をいただくとうれしいです。救急車を呼ぶことは市民の方も人生で1度あるかないかの出来事。慌てている方が多いので、傷病者や呼んだ方の気持ちが落ち着く接し方、不安にさせない声かけを意識しています」

―メッセージ

「私は大学の公務員試験対策講座がとても役立ったので、公務員をめざしている方にはおすすめです。面接では、模範解答を器用に答えるより、『自分は消防士に相応しい！』『消防士になりたい！』という強い思いを伝えることが大切だと感じました。私は消防学校の集団生活を通し、自分自身を深く知ることができました。いろんな性格の人と一緒に暮らすことで、自分の性格や長所短所を客観視できたことも大きいです。学生時代、まずは自分自身を知ることから始めてみてください」

自分年表

18歳
野球部に所属し、部活漬けの毎日。卒業後、愛知学院大学へ進学。

↓

22歳
公務員試験対策講座を受講し、消防職員採用試験に合格。

↓

現在
消防学校が自分自身のことを深く知る機会に。火災、救助、救急、予防業務を担当し、日々の仕事に励む。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！
http://amb100search.com

建物の骨組みとなる鉄骨製造を通し、みなさんの日常生活を支える

井上陽菜さん（2003年生まれ）
四日市商業高校 出身

企業情報
株式会社渡辺鉄工
四日市市楠町北五味塚1256
https://www.watanabe-tekko.com

―学生時代

「コロナ禍で家にいる時間が増え、オンラインゲームをすることが多かったです。一方で商業高校だったこともあり、情報処理検定や簿記などの資格取得にも力を入れました。将来のことはあまり具体的に考えていませんでしたが、性格的に座って働くより、体を動かしながら働ける仕事のほうが向いていると思っていました。高校卒業後は、建物の中の最も重要な『鉄骨』の作図作成から現場施工まで鉄骨工事一式をおこなう渡辺鉄工に就職しました。自宅から通いやすかったこと、女性が多い職場だったので働きやすい雰囲気を感じたことが渡辺鉄工を選んだ決め手です」

―仕事について

「私は知識も経験もゼロからのスタートでした。鉄骨の製造工程には、CADを使った作図から加工、組立、溶接、検査まで多くの作業があります。加工の部署には工業高校出身の人が多かったですが、私が担当しているのは検査の仕事です。最初は簡単な鉄骨の梁の寸法をメジャーや巻き尺で測ることからはじまり、慣れてくると柱の検査も任されるようになりました。入社当初は緊張してうまく話せなかったコミュニケーション面も、今では円滑にとれるようになりました。わからないことや不安なことは、すぐ先輩に聞くようにしています」

現在の仕事内容を教えてください。

「図面をよく確認して実物と照らし合わせながら、製品の寸法が図面通りに仕上がっているかを測定します。取り付く部品等にもズレがあれば製作者にフィードバックします。私たちが製造した鉄骨は、工場や大型施設、倉庫、スーパーなど様々な建物の骨組みになります。建物が完成した後は見えない部分ですが、何十年にもわたって建物を支え続けることで、みなさんの日常生活の安全安心を支える仕事でもあります」

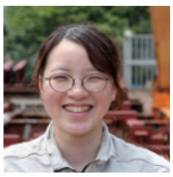
―やりがい

「もし私が間違いを見逃して製品が現場に届いてしまうと、大きなトラブルにつながります。『事前に不良を見つけてくれて助かった』と感謝されることがやりがいです。正確な製品を現場に届ける重要性を実感しています。また、工場で見ていた1個1個の鉄骨が、現場で巨大な骨組みとして組まれている様子を見たときにもやりがいを感じます。スケールの大きさに圧倒されると同時に大きな達成感を得られます」

―メッセージ

「この仕事に向いているのは、元気で明るく、人と話すことが好きな人だと思います。鉄骨の知識や技術よりも、まずは元気なあいさつや、明るく接することが大切です。知識や技術は働きながら自然に身につきますし、いい関係が築ければ、まわりの仲間も助けてくれます。高校時代は、友達との思い出をたくさん作ってほしいです。社会に出るとなかなか友達と休みが合わなくなるので、今のうちにたくさん遊んでおくといいですよ！」

ありがとうございました。



自分年表

18歳 体を動かして働くほうが性格に合っていると感じ、渡辺鉄工に就職。

↓

19歳 製品の検査を担当。経験を積みながら、1から知識と技術を習得。

↓

現在 図面と実物を入念に照らし合わせ、正確な製品を現場に届ける。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！

http://amb100search.com

自分の心が動く瞬間を見逃さない。その感情が将来のヒントに

松谷 涼子さん（1985年生まれ）
鈴鹿高校 出身
京都芸術大学
空間演出デザイン学科空間デザインコース卒業

―学生時代

「高校時代は、カラオケに行ったりプリクラを撮ったりと楽しい青春を過ごしました。やりたいことが明確にあったわけではないんですけど、どこかで『自分らしくいられる場所』に対する憧れがあったのを覚えています。芸大のオープンキャンパスに行ったとき、個性を発揮して活動している学生の姿が眩しく見え、私もクリエイティブな方向に進みたいと思うようになりました。それが進路を考えるきっかけです。高校卒業後、京都芸術大学の空間演出デザイン学科に進学しました」

大学時代について教えてください。

「建築のような物理的な設計だけでなく、人がその場でどう感じ、どう動くかといった『体験をデザインする』視点で空間を学びました。イベントや販促物、地域の魅力づくりなども学びながら、『誰かがうれしいと感じたり、役に立ったりする仕組みを考えること』の楽しさを知りました。それは今の仕事にもつながっていると感じます」

―仕事について

「現在は、水産業界でWEBマーケティングや広報の仕事をしています。漁師さんや流通業者さん、飲食店など、さまざまな人が関わるこの業界には、人手不足や高齢化、情報の共有が難しいといった課題があります。私の仕事は、まず現場の声を丁寧に聞いて、その課題を知ることから始まります。そして、PRやITの力を使って『どうすればもっとよくなるか？』を考え、情報発信や仕組みづくりを通じて課題解決につなげていく役割です。デジタル化がまだ進んでいないこの業界で、新しい生鮮流通の形をつくることに挑戦しています」

心がけていることは？

「『相手にちゃんと伝わる言葉で届けること』です。漁師さんや飲食店の方など、関わる人の背景や立場はさまざまなので、どんな言葉なら伝わるかを意識して情報発信しています。難しい言葉や一方的な説明にならないように、『誰に、どう届けるか』を考えるのは大切な仕事のひとつだと感じています」

―やりがい

「言葉や企画を通じて発信をするなかで、『よかった』『共感した』といった反応があったときにやりがいを感じます。特に、自分の企画や発信によって、誰かの気持ちや行動にポジティブな変化が生まれたときは本当にうれしいです」

―メッセージ

「高校生のころは、やりたいことがわからず、ぼんやりしていても焦る必要はありません。大切なのは自分の心が動く瞬間を見逃さないことです。『なんでそう思ったんだろう？』と自分に問いかけてみたり、気になったことをやってみるだけで世界は少しずつ広がっていきます。うれしい、悲しい、ワクワクする、そうした感情に正直になることが自分を知るきっかけになります。それが、『やりたいこと』を見つける第一歩になるのかなと思います」

ありがとうございました。

自分年表

18歳 友達と楽しい青春時代を過ごす。卒業後は、京都芸術大学へ進学。

↓

22歳 デザインそのものだけでなく、人の思いや行動の背景まで深く学ぶ。

↓

現在 PRやITの力を活用して仕組みを考え、課題解決につなげる。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！

http://amb100search.com

©VEERTIEN MIE

YOUTH ユースフラッシュ FLASH

三重で活躍する有名人インタビュー

四日市中央工業高校出身のプロサッカー選手、谷奥健四郎さんを独占取材！

2026年に開催されるFIFAワールドカップは、カナダ、メキシコ、アメリカの3ヶ国開催。日本代表も出場を決めました。世界を舞台に戦う選手の姿から勇気をもらった人も多いのではないでしょうか。今回、取材した谷奥選手も、三重初のJリーグチームをめざして戦う選手のひとり。そんな谷奥選手に夢を実現するために大切なことを聞いてきました。

サッカーとの出会い

「小学1年生のとき、4歳上の姉の同級生に混ぜてもらったのがサッカーとの出会いです。ある程度スキルがないと仲間に入れてもらえないので、毎日、家の前の壁にボールを蹴って練習していました。少年団に入って本格的に始めたのは3年のとき。ずっと歳上とサッカーをしていたので最初から活躍できた記憶があります。6年のときの大会では得点王になり、『自分は天才だ！』と天狗になっていました(笑)。中学に進学後は、ソシエタ伊勢SCに入りました。順風満帆かと思いきや、エスパルスやグランパスのジュニアユースと試合をしてボコボコにやられたときは強豪との壁を感じましたね」

そのときは挫折を感じましたか？

「それが昔から心が折れないんですよ(笑)。親からも、『今がすべてじゃない。大人になったときにどんな選手になっているかが重要だ』と言われていたので焦りもなかったです。今の自分に足りない部分を見つめ直し、何が必要かを考えて行動していました。このころにはサッカー選手をめざすようになっていて、レベルの高い環境に身を置けたことのほうが嬉しかったです。高校は、四日市中央工業高校に進学しました」

高校での経験

「高校1年のときに、Aチームで全国大会に出場するという貴重な経験をしました。でもその後、途中でBチームに降格。そのときは『なぜ自分が…』と納得できずにいましたが、振り返ればハングリーさの欠如が原因だったように思います。もともとみんなで楽しむためにサッカーを始めたことや、試合に出ることが当たり前になっていた環境もあり、当時の自分には積極性がなくなっていました。それに気づいてからは、朝練には一番早く行き、グランド照明も自分が消して帰る。そして毎日の練習を100%でやることを徹底しました。プロサッカー選手になるという目標を再認識し、『目の前の相手に絶対に勝つ！』という強い意識が芽生えました」

プロの道へ

「高校卒業後は、順天堂大学に進学してサッカーを続けました。高卒でプロをめざしていたので、当時はそれが叶わなかったという落胆が大きかったです。1年のときも、『4年後にプロになってやる』という前向きな意欲はありませんでした。それでも試合には出場させてもらっていて、プロをめざす仲間がまわりにいるなかで、自分のやる気のなさに引け目を感じることもありました」

再びプロをめざしたきっかけは？

「1年のときから試合に出て活躍はしていたので、Jリーグチームの練習に参加する機会が増えてきたんです。そのとき、『もっと頑張れば自分もプロになれる』と思うようになりました。今の自分とプロとの距離が明確になったことで、目標が現実的になった気がします。そこからは一気にモチベーションが上がりました。高校生のみなさんも、なりたい職業があったら、その職業の人に会いに行くことをおすすめします。本物にふれることで、目標への道筋が明確になりますよ」

プロサッカー選手になって意識の変化はありましたか？

「大学卒業後は、松本山雅FCに所属し、その後、アスルクラロ沼津など複数チームを経て、現在は地元三重に戻りヴィアティン三重でプレーしています。プロ意識の面では、1年目に出会った先輩の存在が大きいです。プロ1年目で試合に出られず、『何のためにサッカーをしているんだろう』と感じている時期がありました。そんなとき、毎日の練習を常に誰よりも全力で取り組む自分と同じ境遇のベテラン選手が、途中出場のチャンスをつかんで活躍する姿を目の当たりにしたんです。『これが本当のプロフェッショナルだ』と思いました。自分は、何も成し遂げていない1年の新人なのに…。その先輩の姿を見て、とにかく毎日の練習を一生懸命やろうと思うようになりました」

点が入れば歓喜し、時には悔しい瞬間もある。そんな感情のエネルギーのぶつかり合いを全力のプレーで表現する。

ヴィアティン三重へ

「ヴィアティン三重は、桑名市、いなべ市、東員町、木曽岬町、菰野町、川越町、朝日町をホームタウンとしてJリーグをめざしています。お客さんは非日常を求めてスタジアムに来ています。日常生活で感情を100%出す場面は少ないと思いますが、サッカーは点が入れば歓喜し、時には悔しい瞬間もある。そんな感情のエネルギーのぶつかり合いを全力のプレーで表現し、観る人の心に響かせたいと思っています。大差で負けていたとしても、諦めずにボールを追いつづける姿が人の心を動かし、誰かの背中を押す力になると信じています！」

キャプテンとして意識していることはなんですか？

「技術だけでなくメンタル面が大事なスポーツです。どんな状況でも仲間が前を向けるような声かけ、たわいもない会話を大切にしています。自分が前に立って盛り上げるというより、みんなが自然といい方向に進めるように促す存在でいたいと思っています。今まで見てきたキャプテンの姿を参考にし、自分なりのリーダー像を作っていきたいです」

やりがいを感じる瞬間は？

「一番のやりがいは、試合に勝ったあとに観客のもとへ行き、喜んでくれている姿を見ることです。あの瞬間の感情は何にも代えがたく、特に相手が強ければ強いほどやりがいは大きいです。子供たちが試合を見に来て、『将来、サッカー選手になりたい！』と言ってくれることもあるので、自分が子供のころに憧れた選手のように、自分も誰かの憧れになれていたら嬉しいです。ヴィアティン三重は、選手と観客の距離が近いアットホームなクラブです。Jリーグ入りをめざしているので、ぜひ試合を観に来てください！」

――メッセージ

「高校3年間は、あっという間に過ぎていきます。私は部活中心の生活でしたが、苦しいことも楽しいこともたくさんあって濃密な時間でした。自分にとってはサッカーでしたが、熱中できるものがあれば何でもいいと思います。映画鑑賞でもいいし、友達と遊ぶことでもいい。みなさんも好きなものを見つけ、1日1日を大切にしてください。あとは、自分の体を動かすこと、実際に行動して自分の目で見て感じたことを大切にしてほしいです。スマホの画面の中にはない、心に刺さる体験がきっと待っていますよ！」

ありがとうございました。

谷奥健四郎さん（1992年生まれ）

四日市中央工業高校 出身　**順天堂大学** 卒業

経歴

8歳 大王サッカースポーツ少年団に入り、本格的にサッカーを始める。

↓

23歳 松本山雅FCに入団。プロサッカー選手としてのキャリアをスタートする。

↓

現在 地元三重に戻り、ヴィアティン三重でプレー。キャプテンを務める。

誰かの得意をもち寄って、身近な誰かを元気にする

夏目文絵さん（1978年生まれ）
桑名高校（在学時は衛生看護分校）出身
京都芸術大学大学院
コミュニケーションデザイン領域空間デザイン分野修了

企業情報
一般社団法人kinari
いなべ市北勢町阿下喜1980
https://kinariiroiro.wixsite.com/website

―学生時代

「小さいころから絵を習っていて、アートや表現することが身近にありました。高校時代に地域サークルで手話と出会い、ろう者や障害者の医療・福祉にも関心をもつようになりました。看護師として働きながら大学でも学びを続け、『アール・ブリュット（障害者アート）』に衝撃を受けたことが今の活動の原点です」

障害者アートが原点なんですね。

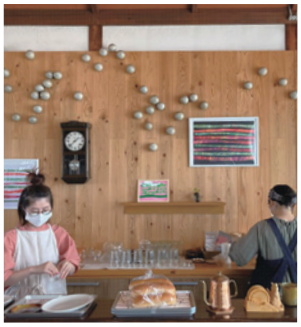
「自分がアーティストになる技術はないけれど、キュレーション側から障害者の魅力的な表現を世界に発信することならできるかもしれないという思いが芽生えました。福祉とアートをつなげる可能性を模索し、芸術全体やデザインの本質を学ぶために京都芸術大学（通信）で芸術教養を学びました」

―仕事について

「私には7年ごとにターニングポイントがあって、看護師として、病院勤務7年、福祉施設7年、教員7年を経験し、起業して福祉とアートを軸にした一般社団法人kinariを設立しました。現在は、『フクシはオシャレでオモシロイ』をスローガンに掲げ、筆談カフェ『桐林館喫茶室』の運営、障害者アートの展示やプロダクト販売、手話・筆談の啓蒙普及などを、コミュニティナースとしておこなっています」

コミュニティナースとは？

「誰かの得意をもち寄って、身近な誰かを元気にする仕事です。医療や福祉の専門職に限らず、自分の経験やスキルをいかして地域に関わることができます。私の場合は、看護師としての経験と手話通訳のスキルをいかして、地域の人たちとつながりながら様々な活動をしています。私は特に『おもしろい』という感情を大事にしながら、日々の活動に取り組んでいます。活動方法は自由。誰もがコミュニティナースになれる可能性があります」



―やりがい

「『聞こえないこと』が誰かの障害ではなく、『知ること』でそれが自分ごとになる。そんな思いで始めた筆談カフェ。気づけば筆談ノートは100冊を超えました。来てくださるのは聴覚健常者のお客さんがほとんどですが、『おもしろい世界だった』『帰りたくないくらい心地よかった』といった感想を多くいただきます。たわいもない会話でも、その記録が残っていることが大きな財産。私の考える『おもしろい』が誰かに届いた瞬間がうれしいです」

―メッセージ

「みなさんが感じる『おもしろい』を深掘りしてみてください。何がおもしろいのかを考え、知らない世界をたくさん知ることで、その根源が見えてくるかもしれません。私も看護師をめざしていた高校2年のときに、ろう者とのコミュニケーションも必要だと思って自主的に手話を学びはじめました。それが、長い時間を経て筆談カフェという今の活動につながっています。高校時代の小さな出会いが、将来を大きく変えることもありますよ」

ありがとうございました。

自分年表

17歳 看護師になった後のことを考え、手話の勉強を始める。
↓
22歳 看護師として働きながら、アートと福祉についても学ぶ。
↓
現在 自分の経験や得意分野をいかして、コミュニティナースとして活動中！

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！
http://amb100search.com

新しいモノを生み出すのではなく、今あるモノの価値に光を当てる

山崎基子さん（1982年生まれ）
昴学園高校 出身
玉川大学
教育学部教育学科通信教育課程卒業

企業情報
株式会社イナベキカク
いなべ市藤原町西野尻 1040
https://okudo-nakamuraya.com

―学生時代

「全寮制の昴学園高校で過ごした3年間は、仲間と一緒に寮をライブ会場にしたり、マラソン大会で鹿に追いかけられたり（笑）、川で遊んだりと、楽しい思い出でいっぱいです。私は美術コースを選択し、当時は絵本作家をめざしていました。ただ、美大受験で全国のレベルを知り、努力だけでは届かない現実に直面…。すごく悔しかったですが、全力でやりきったこともあり、後悔なく次の道に進むことができました」

―仕事について

「この仕事を始めるまでに、保育士、飲食店、ラジオパーソナリティ、司会業、コーチングなど20以上の様々な仕事を経験しました。その後、いなべ市地域おこし協力隊として空き家活用や移住促進に取り組みました。地域の暮らしや人の魅力にふれるなかで、『ここで何かをカタチにしたい』という思いが強くなったことが事業を始めるきっかけです」

どんな事業を始めたのですか？

「MikkeProjectでは、地元食材を使った小籠包を開発し、『点心専門店Ｆｕｕ』をオープンしました。さらに2021年には、地域創生プロジェクトを展開する、株式会社イナベキカクを設立。伝統的な技法で建てられた築220年の古民家で、竈のあるレストラン『ｏｋｕｄｏ中村舎』をオープンしました。中村舎では、昔ながらの料理を提供するだけでなく、かまど炊き体験やわら草履づくり体験、ウェディング用の場所貸しなどもおこなっています」

仕事内容を簡単に教えてください。

「いなべの魅力をカタチにして発信し、『あなたの還る場所』をつくることが私の仕事です。衣食住の3つの視点から、すでにある地域資源に光を当てブラッシュアップして発信しています。新しいものを生み出すのではなく、今あるものの価値を見つめ直し、日本の食文化や伝統技術、昔ながらの暮らしを伝えることを意識しています」

―やりがい

「地元の人が親戚のように『頑張ってるね～』と声をかけてくれることがうれしいです。いろいろな人が活動を応援してくれることにやりがいを感じます。今は、地域を守りたいという思いも強いです。発展させるのではなく、今の『いなべ』の風景を100年後も残したい。日常で蛍が飛び交う景色、それを支える人の営み。新陳代謝をしつつ、豊かな自然と暮らしを残していきたいです」

―メッセージ

「『あきらめる』という言葉は仏教用語で、本来の意味は『明らかにする』です。つまり、状況を理解したうえで決断し、執着を手放すこと。決してネガティブな意味ではないので、みなさんには『やりきった』と思えるくらい何かに全力で打ち込んでほしいです。私にとっては芸術がそうでした。やりきることで次の道が見えてきますし、本気で頑張った姿は必ず誰かに伝わります。応援してくれる人や次のチャンスをくれる大人もきっと現れますよ！」

ありがとうございました。

自分年表

18歳 全寮制の高校で、仲間と全力で楽しんだ3年間を過ごす。
↓
39歳 いなべ市に拠点を置き、株式会社イナベキカクを設立。
↓
現在 豊かな自然と暮らしを残すため、日々の活動に取り組む。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！
http://amb100search.com

日々の環境分析を通して、持続可能な環境づくりに貢献する

山本知里さん（1999年生まれ）
伝習館高校 出身
熊本大学 理学部卒業

企業情報
株式会社東海テクノ
四日市市午起2-4-18
https://www.tokai-techno.co.jp

―学生時代

「物理や化学などの理系科目が好きで、大学でもそうした分野を学びたいと思い熊本大学理学部に進学しました。たとえば、水が氷に変化すると体積は増えますよね。粒子同士のすき間が大きくなるからなのですが、様々な現象の裏には必ず理由があるんです。そのおもしろさに魅了され、自然と化学や実験が好きになっていきました」

大学時代について教えてください。

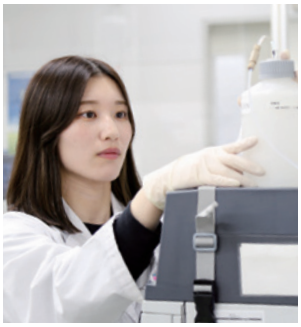
「有機化学、無機化学、物理化学、分析化学を中心に学びました。講義と実験は半々くらいで、座学では化学反応の進行や装置の原理、計算式などを学び、実験では錯体の合成や川の水の酸素濃度の測定などをおこないました。分析化学でGC（ガスクロマトグラフィー）装置の原理や構造を学んでいたので、現在の職場でもスムーズに対応できています。研究室では物理化学を専門とし、半導体の研究に取り組みました」

―仕事について

「環境計量事業所として排ガス測定や水質・土壌調査などをおこなう東海テクノで働いています。私の仕事は、川や海、空気に有害な物質が含まれていないかを、厚生労働省や環境省などで定められた規制値にもとづいて調べる環境分析です」

現在の活動内容を教えてください。

「製造業などの企業から依頼を受け、工場から出る排水や排ガスが基準を満たしているかを確認し、お客様のモノづくりが『環境に配慮されていること』を証明する重要な役割を担っています」



分析の流れを教えてください。

「まず他部署の担当者が、水や空気、土などの検体を現場から採取してきます。それを分析するための前処理をして、排水はLC（液体クロマトグラフ）、排ガスはGCといった検体に合わせた分析装置を使って科学的に成分を調べて解析し、お客様に報告します」

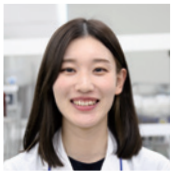
―やりがい

「もともと化学や実験が好きだったので、日々の分析作業そのものが楽しいです。時には、まだ測定方法や前処理方法が決まっていない検体を分析することがあるのですが、自分で方法を考えて測定するのはとてもおもしろく、やりがいを感じます。また、厚生労働省や環境省の基準は、常に新しい項目や記述が追加されていくので、そのたびに新しい知識を身につけながら自身を成長させられることも楽しいです」

―メッセージ

「資格がなくても働ける職場ですが、私は分析できる範囲を広げるために作業環境測定士を取得予定です。化学の基礎を学んでおくと、現場での仕事にも早く馴染めると思います。あとは、失敗しても挑戦を続ける気持ちと常に疑問をもつことが大切です。学生時代、何かひとつのことに熱中して取り組む経験は視野を広げてくれます。目標に向けて工夫しながら努力するなかで、自分なりのアプローチ方法や考える力が自然と身につくと思います」

ありがとうございました。



自分年表

18歳 好きだった物理や化学などの理系科目を深く学ぶため、熊本大学へ進学。

↓

22歳 分析装置の原理や構造を学ぶ。研究室では半導体の研究に取り組む。

↓

現在 常に新しい知識を身につけ、自身を成長させる姿勢を忘れずに日々の分析に取り組む。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！
http://amb100search.com